

学校評価書

2019年度 葦崎東中学校

(自己評価)

教職員による学校評価アンケート

前期 令和元年 7月 9日～ 7月12日

無記名・評定尺度4段階・一部記述式・単純集計

【配布数 28 回答数 28 回収率 100%】

後期 令和元年11月 5日～11月15日

無記名・評定尺度4段階・一部記述式・単純集計

【配布数 29 回答数 29 回収率 100%】

(参考アンケート)

(1) 保護者アンケート 令和元年11月 5日～11月15日

無記名・評定尺度5段階(E:わからないを追加)・一部記述

式・単純集計・厳封提出

【配布数 388 回収数 374 回収率 96.4%】

(2) 生徒アンケート 令和元年11月 5日～11月15日

無記名・評定尺度4段階・一部記述式・単純集計

【配布数 388 回収数 379 回収率 97.7%】

次の項目について自己評価をまとめている。

- 1 本年度の評価結果がよかったものである。今後も本校の特色として、全職員をあげて取り組んでいきたい。
- 2 本年度の評価結果があまりよくなかったものである。改善の手立てをたて、本校の教育水準を向上させたい。
- 3 昨年度同期と比べよくなったものである。今後も全職員をあげて取り組んでいきたい。
- 4 昨年度同期と比べあまりよくなかったものである。改善を進めたい。
- 5 改善項目への取り組みの状況をまとめたものである。

さらに、自己評価結果の数値については、

各項目についての評価は(A:そう思う B:だいたいそう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない)

の4段階から該当すると思う段階(A・B・C・D)の1つに○印を付けて回答している。

参考として付けた、保護者アンケート結果、生徒アンケート結果については、全校からの回答割合を%数値で表記した。

また、表中のavg. は、A～Dを各4～1点として、平均として表した数値である。平均として2.5ポイントが目安となる。

(E:わからない については点数化していない)

前期比、前年比欄は、このavg. を前期(本年度7月実施)と比較したもの、前年(昨年度11月実施)と比較した数値である。

2019年度 自己評価(後期)

1 「そう思う」というイメージが高かった(平均が高かった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
9	校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理(整備・保全)している。	3.8	0.0	0.0
	課題・意見			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も全職員が協力して適切に行っていく。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
8	校内研究は適切に推進されている。(課題設定・組織・運営)	3.6	0.0	0.0
	課題・意見			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も全職員が協力して適切に行っていく。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
26	読書活動は効果的に計画・実施されている。	3.6	0.1	0.1
	課題・意見			
	・家庭での過ごし方まで制限する必要はない。 ・生徒によって取り組みに差がある。			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も生徒の実態に即して適切に推進していく。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
23	体験学習は効果的に計画・実施されている。	3.6	0.2	0.1
	課題・意見			
	・どのような環境教育が行われているか把握しておらず、効果的に計画実施されているイメージがないから			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も年間計画に適切に配置し、生徒の実態に即して体験学習を行う。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
3	学年・学級の教育活動計画が、経営方針や努力点を踏まえた具体的ものになっている。	3.5	0.0	0.1
	課題・意見			
総括	◎高い評価がされている。			
改善	◎今後も経営方針や努力点を踏まえて協力的に行う。			

2 「そう思わない」というイメージが高かった(平均が低かった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
42	レベルアップ学習は効果が認められる。(改善項目⑧)	2.5	-0.6	-0.2
	課題・意見			
	・単なる「テスト前の自習時間」で、あまり工夫はされていない。 ・時間の確保と内容を考え、有意義な時間にしたい。			

総括	◎教職員評価では効果を認める割合がすくない。しかし、生徒アンケートからは大きく期待していることがわかる。効果をあげる取組を考えたい。
改善	◎改善策をもち、来年度の教育課程に活かす。 ◎改善策として、 ・個に応じたきめ細かな学習指導の一環として取り組むという共通理解の下、創意工夫をする。 ・授業後のプラス30分ではなく、1時間を確保し、しっかり取り組ませる。 ・過去の実践に学び、生徒同士の学び合いの場を設ける。(例えばStudent's teacher) ・推進役として教科係を活用し、生徒たちが自ら学んでいくように支援する。 ・学習計画表を工夫し、量的な把握(〇〇分勉強した)と質的な把握(～～について学んだ)を行う。 ・レベルアップ学習がその場限りのものとならないようにするため、学習計画表を見直し家庭学習に繋がるように工夫する。

参考資料

生徒アンケート

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
20	テスト前のレベルアップ学習は役に立っていると思いますか。	3.4	3.4	

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
6	会議は、能率的に行われている。(改善項目①)	2.8	-0.2	0.1
	課題・意見			
	・協議するものとししないものをしっかり分けることで時間短縮が図れると思います。			
	・職員室で行い、予め資料をパソコンに保存し事前に見ておくことにより、時間短縮につなげたい。 ・書いてある内容を全部読む必要はない気がする。			
総括	◎資料のPDF化、提案時間の見込み設定などに取り組み、少しずつ改善する方向にはなっている。しかし、職員の多忙化解消への取り組みのひとつとして会議をさらに能率的に進めて行きたい。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎会議の開始時間を早い時間となるよう可能な限り設定する。 提案時間の設定を実際可能なものとして計画する。会議終了時間内におさまるよう事前に検討する。当日の持ち込み資料による提案などは極力扱わないこととする。 ◎さらに、改善策として、 ・今年度、時間短縮に有効であった職員室での職員会議だが、議題内容を確認しながら実施していく。 ・提案資料をレジュメと本体資料の2段構成とし、発表は内容をA4一枚にまとめたレジュメのみで行う。(アップル社での実践で成果を上げているとのこと)全議題一律には出来ないが、出来るところからやってみる。 ・司会は、議題について見通しをもち、議するか報告で済ますのか、あるいはルーティン的な内容なのか新たな活動として取り組む内容なのか判断しながら進行する。 ・受け身の会議にならないよう職員の意識改革を進める。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
43	言語環境の整備は適切に行われている。(生徒はもちろん教師の活動を含めた掲示・放送・言葉遣い・あいさつ)	2.9	-0.1	-0.2
	課題・意見			
	・感情にまかせた指導をする教師が気になる。教師同士であいさつをしても返さない教師がとも多い。教師なら生徒だけでなく、教師同士でもあいさつをきちんとするべきだと思う。 ・生徒のあいさつの少なさ、声の小ささにはがっかりする 때가 多い。教師側もお手本となるように、しっかりやっていききたい。			
総括	◎あいさつや自分の考えを相手にきちんと伝えようとする態度が身につけていない指摘がある。また、生徒のアンケートと自己評価に乖離が見られる。職員自ら言語環境の整備を心がけて取り組んでいきたい。			
改善	◎改善策をもち、来年度の教育課程に活かす。 ◎改善策として、 ・「放送」についての指摘に対しては、原稿を作るとともに、事前に練習を行わせる。放送機器の刷新で対応する。 ・校内掲示は、美化委員会に任せきりにせず、学年生徒会・教科・図書等も協力し整えていく。 ・授業に限らず日頃より返事、発言について指導し、意識させる取り組みを行う。 ・生徒同士、生徒と教師の人間関係が親密なものになるよう、行事や活動に取り組んでいく。 ・生徒会、生活委員会の取り組みを支援し、自発的なあいさつを促していく。 ・教師も日々の業務に埋没せず、自らの発言に自覚を持って範を示していく。			

参考資料 生徒アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年
20	生徒や先生のあいさつはできていますか。	3.4	3.3

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
18	授業において個に応じたきめ細かな学習指導に取り組んでいる。(改善項目③)	3.0	-0.1	-0.1
	課題・意見 ・個に応じた指導の時間確保が難しい。 ・授業内では難しく、放課後とは思っても部活があり、時間がとれない。			
総括	◎昨年度までの評価とほぼ同じである。継続して取り組む必要がある。授業内での評価を適切に行い、個に応じられるように授業設計を進めていきたい。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎さらに、改善策として、 ・新指導要領への移行を踏まえ、教育課程の改訂を進めて行く。無理のない年間指導計画を組んでいく。 ・これまでも取り組んできたが、ワークシートの工夫やICT機器の活用により生徒の理解を進めるとともに、机間指導を充実させ個の学習状況を把握する。 ・1時間で学ぶ内容を明確にし(めあての設定)、その達成状況を生徒と教師が共に行うことができるよう工夫する。 ・授業に置いていわゆる“C”に当てはまる生徒への対応策を複数考えておき、状況により使い分けていく。			

参考資料

保護者アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年
16	学校は、きめ細かな学習指導や評価を行っていると思いますか。	2.0	2.7

3 昨年度同期と比べイメージが良くなった(平均が高くなった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
20	道徳の時間の調査週(26週分)までの実施時数 A 24時間以上 B 21~23時間 C 18~20時間 D 18時間以下 (改善項目④)	3.4	0.6	0.3
	課題・意見			
総括	◎教科化に伴い意識が向上したこと、校内研で取りあげていることの結果が表れている。			

4 昨年度同期と比べイメージが悪くなった(平均が低くなった)内容

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
34	地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす取り組みがされている。	3.0	-0.1	-0.2
	課題・意見			
	・自分自身が取り組みを把握していないから ・GT(ゲストティーチャー)のような活用が出来ると良い。			
総括	◎開かれた学校を目指し、教育課程の見直しをするとともに、授業・行事等において積極的に地域の教育力を生かしていきたい。今年度は地域との連携として、1、2年生での校外学習における地域素材としての連携(甘利山倶楽部等)、2年生の職場体験(各事業所・ミアキス)、1年生の福祉教育、さらには、3年生や全学年生徒を対象にした地域の方々を講師にした講演会などを実施した。民生児童委員の訪問を受けたり、地域の方々を招いて防犯安全懇談会の開催、さらには、要望事項を全校より募集しての通学路安全推進会議への提案など様々な連携をしている。			
改善	◎改善策をもち、来年度の教育課程に活かす。 ◎改善策として、 ・一つ一つの活動の目標を明確にし、地域に協力を求め、地域の施設を活用していく。 ・毎年行う活動については、学年間での引継をしっかりとる。場合によっては次年度の担当者や教務も加わり、継続性を持たせる。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
32	短学活・慈愛の時間・係り・当番活動の様子を見ると自主的態度・責任感が育っている。	3.0	-0.2	0.1
	課題・意見			
	・与えられたマニュアル通りに振興しているだけの生徒が多い。			
総括	◎生徒の自律性の発達のためには、教師のサポートが欠かせない。自主的態度を育てるためどのような取り組みがあるのか、抜本的に考える必要がある。			
改善	◎改善策をもち、来年度の教育課程に活かす。 ◎改善策として、 ・既存の学級組織が形骸化しないように、日々の生活の中で活動を仕組んでいく。 ・学年共通の課題に対しては、学年生徒会の活動として取り組んでいく。 ・年間行事予定表に委員会活動の時間を月1回は設定する。 ・短いスパンで活動一評価し、少しの成長をとらえ成果として取りあげていく。(成功体験の積み重ね) ・年度末など適切な時期に、学年・学級経営案について評価・検討する場を持つ。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
17	生徒が授業において「わかる」「できる」という思いを感じている割合は高いと思う。(改善項目②)	3.0	0.0	0.0
	課題・意見 ・家庭学習が定着していないため定着させていきたい。			
総括	◎生徒のアンケートを見ると、少しずつ改善する方向にはなっているという印象がある。しかし、自己評価は昨年度までの評価とほぼ同じである。また、親からの意見も厳しいものがある。継続して取り組む必要がある。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎必ず授業の終末では、振り返る時間を確保して、「わかった」「できた」という確かめができる時間を確保する。また、記録が残るような授業づくりを進める。 ◎さらに、改善策として、 ・新学指導要領の実施に向け、校内研究会や教科部会を定期的に持つ。 ・教師間で授業観察をする機会を作るなどして個々の授業力を高める取り組みを進める。 ・板書の工夫と関連させながら、生徒のノートの取り方の指導を進めて行く。 ・18番の設問と関連づけ、個に応じた指導を充実させて行く。			

参考資料

生徒アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年
7	あなたは、授業で学んだことが身についていると思いますか。	3.4	3.1
8	先生はわかりやすい授業をしてくれますか。	3.4	3.2

保護者アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年
6	お子さんは、学校の授業がわかりやすいと言っていますか。	2.0	2.4

5 改善項目への取り組みの状況

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
33	不登校生徒を復帰させる指導、不登校生徒をつくらぬ指導をしている。(改善項目⑥)	3.2	-0.1	-0.1
	課題・意見 ・学校に来ることが全てのような指導はすべきではない。 ・家庭訪問等しているが、改善が見られない。			
総括	◎担任が家庭訪問して家庭での状況を確認しながら指導を継続してきている。不登校対策会議も定期的に設けられ、対策としてかがやき教室等外部機関との連携を進めて対応を図ってきている。SCの利用が進められて効果を上げてきているが、目に見えるほどの成果にはつながらないので継続する必要がある。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎さらに、改善策として、 ・学級での学級活動の充実を図り、道徳教育にも力を入れて授業実践から不登校生徒を復帰させる指導、不登校生徒をつくらぬ指導を進める。2学期の二者懇談を再設定する。 ・不登校傾向にある生徒には担任や不登校生徒指導による家庭訪問や、保護者との教育相談の時間を確保して個別の指導を進める。 ・不登校生徒指導を中心として、SCの利用、かがやき教室等外部機関との連携をさらに進め、保護者の協力を得ながら登校復帰となるよう指導を進める。 ・今年度の保健指導を受け、ゲームやスマホ等を制限することによる睡眠時間の確保、規則正しい生活のリズムの確立を保護者と連携しながら進める。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
6	いじめのない学校づくりができています。(改善項目⑨)	3.2	0.1	0.0
	課題・意見 ・SNS関係が増え把握が難しいが、細かな所まで目を向けて指導していく必要があると思います。			
総括	◎どの学校にも起こりうるのが「いじめ」という認識のもとで対応を図りたい。教師個人として、組織としていじめのない学校づくりに取り組んでいきたい。いじめの早期解決に向けても組織としての対応を確認しながら進めていきたい。			
改善	◎「未然防止」として何ができるのかを考え、確実な実践を進める教師を目指す。特に、道徳や学級活動、学年行事などの授業での実践に力を入れていく。 ◎「早期発見、即時対応、早期解決」ができる組織的な取り組みを確認し、組織を機能させる実践をすすめる。 ◎さらに、改善策として、 ・いじめが起きたときだけでなく普段から生徒とコミュニケーションを図り、関係性を築いていく。 ・33番の設問と関連させ二者懇談の回数を増やす。 ・アンケート「自分を見つめてみよう」を確実に実施し(年5回)、その分析を通して生徒や生徒集団の変容をとらえる。 ・道徳の授業を中心として心を育てる。			

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
27	家庭学習を支援する手立てを行っている。(改善項目⑤)	3.1	-0.1	0.1
	課題・意見 ・自主学習を行わせる以外出来てないように感じる。			
総括	◎家庭学習の意義や進め方についての指導はされている。しかしながら、家庭学習が定着されなかったり、学習量の確保などがされなかったしている。家庭生活での時間設定を含めて、保護者と協力しながら手立てを考える必要がある。			
改善	◎来年度も改善項目として継続して取り組む。 ◎家庭学習を促したり、家庭学習の進め方などを学級活動で必ず指導する。家庭での時間設定についても個人ごとにきめ細かな指導を続けていきたい(SNSの利用、ゲーム等の時間などを家庭のルールを確認する)。 ◎保護者アンケートにも指摘があったように、長期休業に課題が集中し過ぎないように調整を図る。 ◎さらに、改善策として、 ・よくやっている生徒の家庭学習ノートの見える化(掲示等)を行い、家庭学習のノウハウを学級・学年で共有する。			

参考資料

生徒アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年
11.0	あなたは、家庭で毎日勉強していますか。	3.0	3.1

保護者アンケート

番号	質問項目	今回avg.	昨年
7	お子さんは、家庭で毎日勉強していますか。	2.4	2.8

番号	具体的な評価内容	今回avg.	昨年比	前期比
39	「通信表の二期制から三学期制」への移行は効果を上げている。(改善項目⑦)	3.1	-0.1	0.0
	課題・意見 ・試験は二学期制のままのため、あまり昨年と変化を感じない。			
総括	◎三学期制の定着と効果的な運用について取り組んでいきたい。			
改善	◎三学期制に移行した成果を学校評価で確かめる。 ◎授業時数の確保から通信表の二期制が実施されてきたが、三学期制での具体的な授業時数確保と適切な行事の配置を行っていききたい。 ◎さらに、改善策として、 ・峡北教育協議会や地区の中学校の年間計画を参照し、行事のバランスを整えていく。特に定期試験の配置には留意する。 ・統合型校務支援システムへの理解を進め、業務のムダ、ムリを排し、3学期制の効果を上げていく。			

6 来年度改善項目として取り組む。

42	レベルアップ学習は効果が認められる。	継続
6	会議は、能率的に行われている。	継続
18	授業において個に応じたきめ細かな学習指導に取り組んでいる。	継続
32	短学活・慈愛の時間・係り・当番活動の様子を見ると自主的態度・責任感が育っている。	新規
17	生徒が授業において「わかる」「できる」という思いを感じている割合は高いと思う。	継続
33	不登校生徒を復帰させる指導, 不登校生徒をつくらない指導をしている。	継続
27	家庭学習を支援する手立てを行っている。	継続

学校関係者評価

1 学校関係者評価委員会

- 学校評議員(3名)に上記の自己評価に関する意見をいただいた。
- 令和2年2月6日に開催した。

2 評価の内容

- おおむね自己評価にある改善の手立てを推進していった欲しい。
- 体育面、文化面で表彰を受けている生徒が多い。生徒たちの力を感じる。
- 挨拶に関して
 - ・ まだまだ意識が徹底されていない。先生方の自己評価で様々記載があるが、ここに載るだけでも課題である。
- レベルアップ学習
 - ・ 生徒たちの期待の声がある。是非続けてほしい。
- 生徒指導に関して
 - ・ リーダー性のある生徒の育成を是非お願いしたい。そのためには機会を与えること、つまり、やる気ときっかけを作ってほしい。
 - ・ 自分の思いを伝えられる生徒であってほしい。中学生の時期がベースになる。適切な指導がなされないと、他人と関われないという幼さを引きずってしまう。そのままの大人になってしまうことがないようにしてほしい。
 - ・ 誰か任せになっては良くない。小集団活動を増やしてほしい。そして、「やってもいいかな」という人を表に出す、あるいは「他にやる人がいないならやってもいいよ」という人を増やしてほしい。結局はこういう人たちが集団を支えていく働きをしてくれる。
 - ・ 一人の子供のその子なりの良さを見つけてほしい。勉強も大事でそれができずに越したことはないが、何か取り柄を見つけてほしい。
- 学習について
 - ・ 生涯学習時代である。先を見通して「学ぶ力」をつけさせてほしい。